

〔発言者〕 ヨハネ・パウロⅡ世

〔発言年月日〕 1981年

〔生年、被爆地、職業など〕 1920年生まれ。非被爆者、世界宗教であるカトリックの最高位の聖職者。

〔内容〕

皆さんがきょうまで耐えてこられた苦悩は、この地球に住むすべての人の心の痛みとなっています。皆さんの生きざまそのものが、すべての善意の人に向けられた最も説得力のあるアピール——戦争反対、平和推進のため最も説得力のあるアピールなのです。

〔注〕

長崎の地を踏んだローマ教皇ヨハネ・パウロⅡ世が恵の丘長崎原爆ホームで述べたメッセージからの抜粋。このメッセージは、長崎のカトリック教界に大きな影響を与え、この言葉をきっかけに、被爆したカトリック教徒は原爆被害を語り始めた。

（『教皇訪日公式記録 ヨハネ・パウロⅡ世』主婦の友社編、主婦の友社、1981年所収）